

職種	名前	テーマ
建築省官房 長	豊蔵 一	男のおしゃれ

No.39



ネクタイは、男のおしゃれのポイントだと思います。自分に似合ったネクタイを選べるかどうか、それが、センスの良し悪しではないでしょうか。私の場合、役人という仕事柄、あまり派手なものはありませんが、家内の意見も参考にしながら買っています。

そして、季節やその日の仕事内容などを考えて、毎朝、どのネクタイをするか決めるわけですが、ネクタイを締めるとともに、仕事への気分もグッと引き締まってくるから、不思議なものです。

ただ、私が気をつけているのは、やはりTPOですね。いくら高価で素適なタイでも、TPOに合わなくては、野暮なものになってしまうでしょう。私も二百本以上のタイを持っていますが、仕事、スポーツ観戦、買い物というように、それぞれ使いわけています。また、仕事の場合ですと、どうしても服装が単調になってしまうので、ネクタイは、(ストライプ)の太さ、色合いなどにアクセントをつけるようにしています。

それから、年齢も考えなくては。若いころには、蝶ネクタイなんかしたものですが、今はなかなか……。でも、若い時はかえって地味なものを締めて他方がいいんじゃないでしょうか。逆に、ある程度の年齢になったら、少し派手目の物をしてみては、と思います。もちろん、スーツとの組み合わせを考えてのことですが、ネクタイ1本でグッと若やいだ感じになるものですよ。

もう一点、気を配っているのは、オシャレはトータルなものだということです。ネクタイだけりっぱでもダメ。タイピン、チーフなどのバランスを考える必要があると思います。結局は、服装全体の感じが、その人間にぴったり合っているかどうかということですね。官界にしろ、実業界にしろ、一流と言われる方は、ネクタイにしても、ほんとうに自分に合ったものを選んでいて、いつも感心させられます。

といっても、おしゃればかりは人マネだけでも絶対にうまくいきませんね。要は、興味を持って、自分なりの努力をするということではないでしょうか。

S. 58.1.

職種	名前	テーマ
ロイヤルホテル社長	山本 孝	全方位型で.....と

No.40



ホテル業の三大要素は、

- A (Accommodation)
- C (Cuisine)
- S (Service)

だと、常々社員に言い聞かせてりますが、しかも、それらはこちら側からの押し付けではなく、あくまでもお客さまの立場から望ましいものでなければならぬと申しております。加えて大切なことは、三要素の調和ということでもあります。

私のネクタイ感も同じで、一つにはハーモニーを心掛けております。服装全体のなかでの調和が大切であると同時に、一つには多くのお客さまに接するという職業柄、お会いする相手方の心証も念頭においております。

現代のホテルは、ファッションもその彩り上重要な要素であります。その意味で、ロイヤルホテルでは世界の一流ブランドを集めたショッピングゾーン(パレ・ロイヤル)をもっておりますが、その一員として菱屋さんに加わっていただいておりますのもその所以です。

一方、お客さまとの接点では、その時代、時代のコンセンサスをサービスの基本としなければなりません。従って、私のネクタイ選びも「全方位型」でなければと自認している次第です。

s.53.12.

TIE エッセイ

職種	名前	テーマ
俳優	中山 昭二	ネクタイと私

No.41



私の趣味は、フィッシングとネクタイ。フィッシングが、趣味であることはどなたにもお分かりになるが、ネクタイが趣味という一人や二人は必ず聞きかえす。

若い頃から、私はネクタイをE買うときがとても楽しい。若いときのネクタイでも、愛着のあるもの肅捨てがたいし、今でも身につけることがある。

買い込んでおいたネクタイから、今日はどれにしようかと迷いながら身につける。思わないときに、思わぬ風格が出てきて楽しくなる。私は、紺系統が多い、洋服に合わせてネクタイを選ぶ。紺のスーツに合ったネクタイは、なかなかむずかしいが、それだけに楽しさも増してくる。

私は、男のおしゃれはネクタイと、靴だと思う。ふだんでもなるべく、スーツを着、キチンとネクタイをしめて、私は外出することが多い。私たちの職業のものは、ラフなスタイルのものが多いが、私は、洋服を着る役柄が多く、いざ本番というとき、ふだんから着つけていなければ、浮き上がってしまうからである。

また、撮影の時でも衣裳部から届くなかで、ネクタイと靴だけは自前である。この二つだけは、自分の好みに合ったものでなければピタリとこないからである。いざ本番の時、役柄の中でカチッとしたスーツで、自分の気に入ったネクタイと靴で演技をする時が、一番楽しい。

s.55.10.

職種	名前	テーマ
関東電力(株)名誉会長	芦原 義重	身近に趣味の良いものを

No.42



ネクタイについて何か書くようにとのことだが、私には少なからず難題である。

なにぶん昔から身なりには一向構わぬ方で、相手に失礼になってはならないという甚だ消極的な心懸けを持つだけで、身に仁けるものは大抵お仕着せに任せてきている。その上、ネクタイ屋さんには申しわけないのだが、私の会社では、夏になると省エネルギーの一環として、冷房節約のためノータイで仕事をする。

そんなわけで、筆をとるのも脚かためられるのだが、かと言って、身なりに無頓着でよいとは毛頭思っていない。私自身、これは性分で直し様がないが、男女を問わず奥床しいおシャレはまことに良いものだ。また、老人ほどちょっとした心懸けが大事だというが、これには、私も大賛成である。男の場合、そうしたおシャレのポイントは、何といてもネクタイのようだから、老若、大いにセンスの良いネクタイをつけてもらいたいものである。まあ私のような不精者は、却って、みながしっかり選んでくれるから、多分、私に一番ぴったりのネクタイをしている筈だと割り切っている。

それはさておき、ネクタイに限らず、最近は、みながファッションということを気にしはじめ、身の回りから綺麗な住まいへ、さらに美しい街並みへと関心が広がってきていることは結構な風潮だ。これには皆の所得水準が上がったということもあるだろうし、何よりも気持ちに余裕が出てきたということではないか。これも慌しい高度成長の時代から低成長の時代になって、みんなが一寸立ち止まって自分をふり返るようになったためだろう。我武者羅な生き方から本当の自分の生き方を考えるようになった。それだけ人も社会も成熟してきたわけだ。やはり追いつけ追い越せの時代は、今から思うと、活気はあったが、「忙」の字の示すごとく一面心をうしなっていたところがあったかも知れない。

心にゆとりが生まれてはじめて文化も生まれてくる。海外に対しても、競争意識ばかりでなく、どのように日本の良溝をアピールしていくかといった点に段々力が置かれるようになるだろう。是非そうあってもらいたいものである。

ネクタイの話からやや脱線したが、身近なところに本当に趣味のよいものを育てていくことが、二十一世紀へのわが国にとって、非常に大事な仕事の一つだと思っている。

職種	名前	テーマ
日本プロレス協会副会長	田鶴 浜弘	僕のネクタイ談義と注文

No.43



僕の観念においちゃあ、ネクタイというものは、”機能性(シャツを首にくくりつけ)„ が1とすると、”首飾り„としてのたのしみと喜びは断然10だネ。

- そういうと、実は、こっばずかしい。というのは、誰かにあげ足とられてバ倒されるかも。
”本部かい？ その割におめえのネクタイ、大してバツとしてもいなけりや、いや、しよぼくれてる癖に、あっ、判った よそ行きのセリフは別だもんな„ と。 だが”そうありがたい”というネクタイこそは、日常身边を彩るささやかなたのしみ、男の美学欲求の対象にしたいのが本音なんだ。

”蝶ネクタイ„、”アスコットタイ„、”普通のネクタイ”、”ボヘミアンタイ”、そして”ポーネクタイ”でも薄地の(絹がいいナ)マフラーを”ペペ・モルコ”のジャン・ギャバン好みにアスコットみたい素の首に”マフラータイ”かしら- いずれも僕は全部好きだし、そのドレも全部やってきた。

だが、その他に、たった一つ大嫌いなのが、夏場など近頃見かけるが、紐と金具の”文化タイ”とかいうやつ- いかにもエコノミック・アニマルっ気風好みみたいでサムザムしく、あれは悪趣味の最もたるもの。

僕の好み - ネクタイは、服、ワイシャツとの表意牢いが濃二だが、僕の愛用は、フォーマルな服装の場合はツヤのある(本絹がいい)無地もので、”真っ白„ ”朱がかったショッキング・ピンク” ”濃紺(濃いプルシアン・ブルー)„ ”淡いブルー(セルリアン・ブルー)” ”淡いハダ色(ジョアン・プリリアント) etc - . (以上が目下の手持ち)カジュアルだと失っ張り正直いうと ”ノーネクタイ” で、前記の ”マフラータイ” の場合が多いけど、ネクタイ屋さんが、思い切った大柄の花模様(昔のオイランが寝るとき着てたおべべ！艶っぽい長じゅばんかな、あの模様みたいな色鮮やかなのを作って売り出して欲しい！キット僕、みごとに着こなし(しめこなしか?)で見せますヨ。

僕、今年(昭和五十七年)満七十七歳。乙女座の生れ。血液型はAB型、今がさかりの大熟春です。よろしく。

s.57.11.

職種	名前	テーマ
日本画家	戸田 三顕	ネクタイと美

No.44



社会の文化は日と共に進展し、服飾も又並行して変化して行くのはいまさら取上げていう必要もないが、一言いうならば、もっと独自のものがほしい。現在の服飾の一端を担うネクタイも場所によって使用を規制されているかのように誰が言うとはなしに、形式に囚れてしまっている如くになっている。場所と人間関係もネクタイの重大な一つの要素であり、社会人のモラルでもあるが、もっと身についた自由な選択を求めて自己の嗜好を生かすと共に、人に実の意識観を持たせる事が大切である様に思われる。

ある人の言葉では、ネクタイを常に変えるのは、浅墓な人間だときめつけている。これは、あまりにも美に対する自分を無視する言葉である。人はその日の気分によってネクタイを変え、又ある人は場所を考える。要は人さまざま楽しみを持つことで、もっと自由な選択が必要なのである。

現代社会の中で、今年の流行色という言葉がいまだにあるが、一部の人に作られながらも影をひそめつつある事は、一般の人が色に対する意識が強まったことを意味している証拠です。ネクタイはその人の趣味を気分と色彩的信念をもって表す唯一の楽しみで、洋服とワイシャツとの繋がり深さを現し、夢や幻覚の切れ味をよく現わづ独特な発想を育てて行く服飾美ではないでしょうか。

現代社会の人は、美の意識に対し非常に進歩し、変化しているものの、制約されて、自由をややもすると忘れかけている面がありはしないでしょうか。ネクタイは服飾の面積が問題なのかもしれない。私の理想というか、空想というか、ネクタイは、詩的であり、幻想的である。この大切な美の世界が広く世界を魅了し、単純な行為に服飾美を無視せずに省みる時、次の時代の日本の美は世界の人が見直す時代であるということを予言していると言っても過言ではないと思う。それには、古き東西の服装の研究をし、大切なことを消化することである。そして新しい物が生まれて来るのである。

そこで最も大事なものは、ネクタイの生地と色である。制約された形にこだわることなく自由に追求されてこそ、良きものが生まれて来る。

最後に、個人の自由を生かし魅了する夢のネクタイが生まれて来ることを期待し、出来る事を心から願う。

職種	名前	テーマ
参議院議会	田沢 智治	ネクタイの魔力に驚き

No.45



私は緑ある方々からいろいろな図柄を頂戴し、なんともいえない喜びを味わっています。日常生活の中で、行動日程にあったスーツとネクタイを調和させるのは随分難しいもので、私自身に個性があるように、ネクタイにも素晴らしい個性美があることがわかったのです。

過日、初対面の人々との会合に少々緊張して出席したところ、私のネクタイを見て、「あなたの人柄が分かり、親しみが持てますね。」といわれ、和やかな雰囲気の中で楽しいひと時を過ごすことができました。一見地味に見えるネクタイでも、スーツに調和した時、私の個性を引き出し、人柄を整えてくれる有難さにしみじみ感謝し、ネクタイに人間を生かし、人と人とを和合させる魔力があるのに驚きました。

何故、ネクタイにこのような魔力があるのかと思いつつ、ネクタイの歴史を辿ってみたところ、古くはローマ帝国が盛んな頃(紀元二世紀～二世紀後半)、当時故郷を遠く離れてローマ帝国が支配する北方の国境守備に派遣された将兵たちが、愛する妻や恋人たちから贈られた布を頸に巻き、適かに故郷を偲んで互いに平安を祈った心と心の想いが秘められていたことを知りました。

ともすれば私達の多くは、高度経済成長を遂げた現代社会の中で、先人達が創り上げた貴重な文化の恩恵を受けながらも、それに感謝せず、心の豊かさを培うよりも、物質的豊かさを求めて生活し、人間としての一番大切な人を愛する思いやりの心を忘れかけているのではないのでしょうか。

私達が人間らしく幸福な社会生活を営むためには、人それぞれが有する個性と人権を尊び、優れた能力をより豊かに生かすことと努力が大切だと思います。

性豊かなネクタイ文化が、益々普及されることを期待するものであります。

s.58.7.

TIE エッセイ

職種	名前	テーマ
早稲田大学名誉教授 西村 朝日太郎		ネクタイ雑考

No.46



私は元来、不精者である。朝、ズボン下をうっかり後向きにはいても多少の不便を感じながら、寝るまでそのままですますことさえある。ところが自分の専門となると、一夜に何十冊という事典や参考書を繰りひろげながら何の苦勞も感じない。誠に人間とはおかしなものだと自ら苦笑することがある。だから私は未だかつて、自分のネクタイは愚か、服飾品と名づけるものを自分で買った例しがない。こういう煩わしいことは一冗来、家内のやることだと思っているからだ。飲屋などで女どもに、「先生のネクタイは素適！ どなたの御見立て？」と聞かれても、吐きすてるように「女房さ。他に誰が選ぶんだい」というと、女どももあきれて黙ってしまう。

ところでネクタイは読んで字の如く「首縛り」の装飾品だ。こんなものはあってもなくても良いようなものの、多くの場合、その人の人格、趣味、さらには物質的な豊かさの象徴でもあるらしい。一昔前、それまでは全く主観的、内省的であった心理学を近代科学の路線にのせたヴントは、一切の装飾はもともと原始民族の「呪術」より出たもので、縛る装飾品も本来は好きな相手を自分の許に縛っておくというのが狙いであったという。そこで苦心して見立てたネクタイを彼氏の首にやさしくまきつけ、どうぞ永久に私の許を去らないでと祈りをこめて結んだのがネクタイの起源であるとすれば、いかにもロマンティックな物語りができ上るのだが、残念ながら事実は大分、想像と異っているようだ。ネクタイ、即ちフランス語のCravateは、ルイ十四世の頃、クロアチアの傭兵が使った首の周りのスカーフのことであったようだ。今日、殿方の用いるようなネクタイは、やっと十九、二十世紀になって男の服装が簡素化し、標準化してから、次第にひろく使われるようになったようだ。

ヴントによれば本来、相手の愛をつなぎとめておこうとする「呪縛」と関係があるようにさえ思われたネクタイではあるが、猛々しい女性の氾濫廿つる今日、朝亭主の出がけにネクタイを首の周りに締めながら、内心ではこのままあの世に送り出したいという内的衝動を抑えながら、一応は「行ってらっしゃい」と亭主を送り出す女房もいよう。

s.58.1.

職種	名前	テーマ
日本評論家協会会長	柿谷 華王子	世界を翔けるローカル・ネクタイ

No.47



愛用のネクタイに対し、女性たちからいろいろと評されることがある、先般ギャラリー安土の辻本社長が「先生、素晴らしいネクタイですネ」とほめてくれた。柳か悦に入り、これは親しい菱屋の岡部長に「自分で折んで下さい」といわれて選んだ多色染織の高級品であることを自慢した。

かつてメーカーは、これがニューモードという商魂PRで私達を引き廻わした時代があった。新聞社在職中だったが、若い記者がこのファッションタイを結んで同僚たちに自慢していた。

私は、「君、顔を横向けてくれ給え」と云って、その洒落たネクタイをほめた。

彼は、「どうして顔をそむけなければならないのか」と聞くので、「その顔が邪魔になるので」と、一同を大笑いさせたことがある。

岡部武社長から、「販売成果のデータから次々にカラフルな品を生み出し、その製品の中からお客様に自由に好みの品を折んでいただき、そして、個性を大切に生かして貰いたいというのが、菱屋の方針です」と聞かされたことがあった。とある日、前衛書家の長浜光さんの個展パーティーの席上で作家の藤本義一さんが「私は長浜さんのネクタイで首を締められて喜んでいる」と話したが、私も長浜さん作のネクタイをいくつか頂いて首を締められている一人である。

昨年、思いがけなくインド首相インディラ・ガンジーさんから個人招待を受け、新聞、テレビ、ラジオの支援を受けたが、その際、首相への土産について岡部社長に相談して、広重の浮世絵「日本橋」を織り込んだ額装の豪華な観賞用ネクタイを持参したところ、首相に「これは日本の優れた美術品」と大変よろこんで貰った。

デザイナーのコシノヒロコさんが「ローカル・イズ・インターナショナルとして私は世界に結びつく作品を追求している」と話していた。日本には、優れた素材や染織技能があり、既に今日、その実力を駆使して将来を目指す輝かしいせいかを示しつつある。

この二一世紀こそ、イベントのスタートと共に、是非魅力であるローカルネクタイがどんどん世界を翔けることを私は心から願っている。

s.58.4.

職種	名前	テーマ
三洋電機(株)代表取締役社長	井植 薫	ネクタイと私

No.48



工場生活が長かったせいか、私はどちらかといえば自分の服装には無頓着なところがあった。

あるとき、若い新聞記者に「カラーテレビを売る人が白いシャツではおかしい。社長みずからカラーに関心を持つべきですよ」といわれ、カラーシャツに転向した。当然、スーツやネクタイにも気を配らざるを得なくなったわけだが、長年の習慣とは恐ろしいもので、自分で選ぶと、どうしても地味になってしまう。そこで、もっぱら家内にまかせているわけだが、このところ彼女は有名な外国人のデザインに傾いているようだ。ただし、製作は日本と印しているのが多い。

しかし、最近では日本の美や東洋の伝統をデザインしたネクタイが、欧米でたいへん人気を集め、輸出され始めたという。ネクタイを通じて東西文化の交流が始まっているわけだが、私も負けずにテレビの国際分業を進めなくてはならない。

s.53.4.